

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：23601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03115

研究課題名(和文) 認知症高齢者と家族の質の高い継続的な暮らしを目指した研修の社会実装と評価

研究課題名(英文) The social implementation and evaluation of a training program to assist older adults with dementia and their families in maintaining a high quality of life

研究代表者

大塚 真理子(Otsuka, Mariko)

長野県看護大学・看護学部・学長

研究者番号：90168998

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、人口約2万8千人、高齢化率24.8%の地域で「認知症高齢者と家族の長期療養を専門職連携実践(Interprofessional Work)で支える研修プログラムを社会実装して評価した。各種研修後には、受講者の「認知症連携ケア力」の向上が確認された。短期的アウトカムとして、病院と高齢者施設の専門職の「認知症連携ケア力」は現状維持或いはやや低下傾向だったが、地域支援者では上昇傾向であった。リーダー研修受講者の成長が確認され、地域での認知症ケアの取り組みが活性化した。研究者らが開発した認知症連携ケア研修プログラムの社会実装は、コロナ禍の影響がある中でも一定の成果が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、WHOが推奨する専門職連携教育(Interprofessional Education)を認知症ケア研修に取り入れたこと、研修の評価にKirkpatrick(2006)の教育評価フレームワークを用いたこと、3年間にわたる社会実装の評価は茅ら(2015)の社会実装のロジックモデルを用いたことである。社会的意義は、本研究によって、認知症の早期発見から看取りまでの長期におよぶ認知症継続支援に携わる専門職や地域支援者への「認知症連携ケア研修」として体系図けられたことである。

研究成果の概要(英文)：This social implementation study and evaluation concerns a training program which supports the long-term care of older adults with dementia, along with their families, through interprofessional collaborative practice in a community with a population of 28,000 and a population aging rate of 24.8%.

Collaborative dementia care competency was found to improve among training attendees after each course. Concerning short-term outcomes, collaborative dementia care competency tended to decline slightly or remain consistent among professionals from hospitals and care facilities for older adults; however, care competency tended to increase among supporters in the community. Growth was also seen in those who attended the leadership training, leading to a revitalization of dementia care initiatives throughout the community. Despite the impacts from the COVID-19 pandemic, the social implementation of the authors' collaborative dementia care training program did result in a certain level of success.

研究分野：老年看護学

キーワード：認知症ケア 多職種連携 連携ケア研修 社会実装 評価

1. 研究開始当時の背景

(1) 認知症ケアの施策と研究動向

日本の認知症有病者数は、2012年の462万人(65歳以上人口の15%)に対し、2025年には約700万人(約20%)になると推計されている(厚生労働省, 2014年)。2015年には認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)が発表された。新オレンジプランは、「認知症の人の意思が尊重され、出来る限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らしを続けることが出来る社会を実現する」ことを目的とし、認知症連携パスの作成や認知症対応力向上研修、地域づくりの取り組みや研究などが行われている。

(2) 多職種連携の研究動向

保健医療福祉系専門職のチーム医療や多職種連携は国際的な課題であり、2002年に英国CAIPE(Center for Advancement of Interprofessional Education)により専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)が定義づけられ、ガイドラインが作られている(CAIPE, 2016)。研究者らが開発した「認知症連携ケア研修」(大塚ら, 2016)はこのIPE理論に基づくものであり、研修受講直後の連携力向上は明らかとなっている。多職種連携のための研修は各種行われているが、受講生の行動変容や周囲への波及効果などの研修効果は明らかになっていない。

(3) 社会実装研究の動向

社会実装については、科学技術政策から科学技術イノベーション政策への転換によって、社会技術の研究開発で注目され、各分野で研究が始まっている。しかし、その方法論や評価は確立していない(茅, 2015)。高齢者ケア、認知症ケアの研究分野では、高齢社会の課題を見据えたコミュニティづくりのアクションリサーチの展開(秋山ら, 2015)などが成果を上げており、研究成果を社会実装する新たな研究が求められている。

(4) 本研究の位置づけ

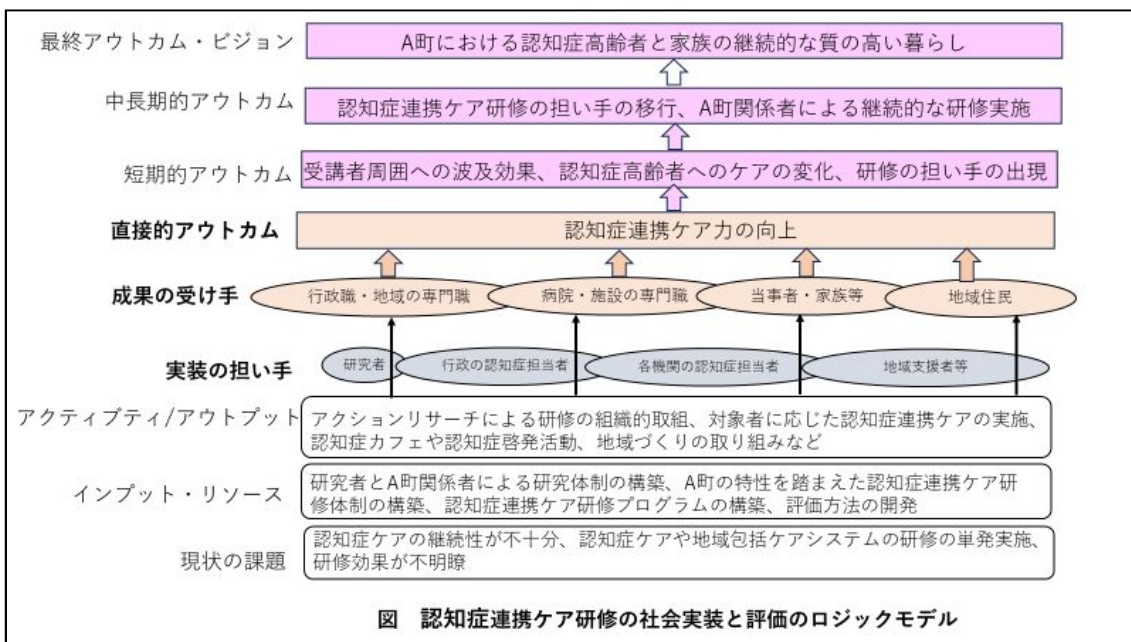
認知症高齢者と家族の長期療養を地域で支援していくための認知症ケアは、入院や施設入所、在宅への移行という療養環境の変化に伴うケアの継続性が課題になっている。また、地域で認知症の継続ケアを担う人材として連携力の高いケア人材が求められている。本研究は、一地域の行政職や専門職及び地域住民とともに、申請者らが開発した「認知症連携ケア研修」をアクションリサーチによって社会実装して評価し、今後の普及に貢献するものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、研究者らが先行研究で開発した「認知症高齢者と家族の長期療養を専門職連携実践(Interprofessional Work: IPW)で支える研修プログラム(以下、認知症連携ケア研修)」を特定地域で社会実装し、その評価を行うことである。

3. 研究方法

研究者、A町の行政職・地域の保健医療福祉専門職・地域住民の4者の協働によって、目的達成のための取り組みを、本研究の「認知症連携ケア研修の社会実装の評価のロジックモデル」に基づき実施し評価した。最終アウトカムは本取り組みのビジョンでもあり、評価対象とはしな



った。

A 町は人口約 2 万 8 千人、高齢化率 24.8%の地域であり、町長から研究協力の承諾を得ている。また、研究者の所属施設の倫理審査委員会で承認を得て実施した。

(1)研究フィールドの組織化と実態把握

ロジックモデルの「現状の課題」「インプット・リソース」の取り組みとして、1 年目に、A 町の行政、地域包括支援センター、病院、高齢者施設、地域住民から本研究のコアメンバーを選出してプロジェクト会議を組織した。プロジェクト会議で A 町の現状の課題を抽出した。病院と施設の専門職、地域の保健医療福祉専門職、65 歳以上の地域住民、地域支援者を対象にベースライン調査を実施した。調査項目は、認知症の人に対する意識、他職種・多機関との連携の実態などである。

(2)各種研修の実施と評価の調査

ロジックモデルの「アクティビティ/アウトプット」の取り組みとして、2・3 年目に、「認知症連携ケア研修」を研修受講者に応じてカスタマイズして実施した、「直接的アウトカム評価」として、受講前後に研修成果の調査を実施した。調査項目は、講義内容の理解度、認知症の人に対する意識、他職種・多機関との連携の実態などに加えて、認知症連携ケア力については IPW コンピテンシー自己評価尺度大塚モデル改訂版 (Otsuka Interprofessional work Competency Scale-Revisin24: 以下 OIPCS-R24) (國澤ら, 2017) を用いた。また、研修受講生とともに、病院や施設及び地域で認知症カフェや研修など認知症ケアに関する取り組みをおこなった。

(3)追跡調査

ロジックモデルの「直接的アウトカム」「短期的アウトカム」「中長期的アウトカム」を得るため、3・4 年目に研修受講者への追跡調査、4 年目にベースライン調査と同様の調査をアウトカム調査と関係者へのインタビュー調査を実施した。

4. 研究成果

本研究では、「認知症連携ケア研修の社会実装の評価のロジックモデル」による直接的アウトカム」と「短期的アウトカム」は確認され、認知症連携ケア研修の社会実装に一定の成果が得られた。しかし、コロナ禍で取り組みの中断もあり「中長期的アウトカム」は得られなかった。

(1)直接的アウトカム

実装の担い手となる専門職や地域支援者を対象に実施したリーダー研修では、研修直後に受講者の「認知症連携ケア力」の向上が確認され、その後、本取り組みの担い手となった。地域の保健医療福祉職を対象に実施した研修でも「認知症連携ケア力」の向上は確認された。3 か月後の追跡調査では OIPCS-R24 の下位尺度である「他者の理解と尊重」で有意な得点の上昇があり、他専門職との関わり方や専門職間の関係性に変化が生じつつあることが伺われた。

(2)短期的アウトカム

ベースライン調査と 3 年後のアウトカム調査を比較した。「認知症連携ケア力」は、病院と施設の専門職で現状維持あるいはやや低下傾向であった。病院や施設では、コロナ禍によって外部者との交流が遮断され、施設内の連携は行われるものの、外部他機関との連携協働に制約が生じてしまったためと考えられた。一方、民生委員や区長など地域支援者で上昇傾向であった。地域でもコロナ禍の影響で住民同士の交流に制限があったが、その状況だからこそ、専門職への情報提供などを行い、連携が高まったと考えられた。

「認知症に対する意識」は、1 年目の現状分析で『地域住民は「認知症」という言葉を使いたがらない』という意見があった。4 年目の関係者へのインタビュー調査で、「認知症」についての知識が普及し、認知症への関心が高まったという意見があった。ただし地域差があり、「認知症」への偏見があるという指摘もあった。

「認知症高齢者と家族へのケアの変化」は、コロナ禍で社会的交流に制限があり、今回の調査ではケアの質向上の成果を見出すことはできなかった。

「研修の担い手の出現」は、リーダー研修受講者は、各種研修の担い手となっており成長が確認された。

(3)中長期的アウトカム

A 町で本研究の実装の担い手となった人々は、継続した研修実施の意向はあるものの、各施設で組織的に取り組む段階には至っておらず、中期的アウトカムが得られたとは言いがたい。本研究後半の 2 年間はコロナ禍で取り組みが十分できなかったことも影響していると考えられる。

<引用文献>

・秋山弘子：高齢社会のアクションリサーチ 新たなコミュニティ創りをめざして、東京大学出版会、2015。

・Centre for the Advancement of Interprofessional Education : Interprofessional Education Guidelines, www.caipe.org.uk, 2016.

・Donald L.Kirkpatrick, James D.Kirkpatrick: EVALUATION TRAINING PROGRAMS-3ed Ed.,Berrett-Koehler Publishers, 21-26, 2006.

・國澤尚子,大塚真理子,丸山優,畔上光代: IPW コンピテンシー自己評価尺度の開発 (第 2 報), 保健医療福祉連携, 10 (1), 2-18,2017.

- ・茅明子，奥和田久美：研究成果の類型化による「社会実装」の道筋の検討,社会技術研究論，12，12-22，2015．
- ・大塚真理子：認知症高齢者の長期療養を専門職連携実践で支える研修プログラムの開発，平成26年度～29年度科学研究費補助金・一部基金 基盤研究（B）研究成果報告書，2018．
- ・World Health Organisation：Framework for Action on Interprofessional Education and Collaborative Practice Health Professions Networks Nursing & Midwifery Human Resources for Health，2010.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 丸山優, 田中敦子, 水間夏子, 大塚真理子	4. 巻 25巻1号
2. 論文標題 認知症高齢者の生活の継続を見据えた急性期病院における看護の構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年看護学	6. 最初と最後の頁 87-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 萩原潤, 桂晶子, 成澤健, 出貝裕子, 徳永しほ, 中込沙織, 菅野諭志, 大塚真理子	4. 巻 1巻1号
2. 論文標題 宮城県A町の住民の認知症への印象	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宮城大学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 3-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 出貝裕子, 大塚真理子, 中込沙織, 成澤健, 徳永しほ, 桂晶子, 萩原潤, 国澤尚子, 丸山優, 畔上光代, 横道弘道, 斉藤文子	4. 巻 1巻1号
2. 論文標題 認知症ケアに携わる専門職を対象とした連携力強化を目指した研修プログラムの評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宮城大学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 54-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 大塚真理子	4. 巻 Vol.13 No.4
2. 論文標題 施設における専門職同士の連携と介護の質	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知症ケア事例ジャーナル	6. 最初と最後の頁 334-341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 出貝裕子, 中込沙織, 成澤健, 桂晶子, 沢田淳子, 徳永しほ, 萩原潤, 大塚真理子
2. 発表標題 認知症連携ケアに関する課題共有と研修・地域活動実装の評価 認知症高齢患者の退院支援ニーズ把握の実態から
3. 学会等名 日本老年看護学会第27回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 成澤健, 出貝裕子, 中込沙織, 桂晶子, 沢田淳子, 徳永しほ, 萩原潤, 大塚真理子
2. 発表標題 A町における認知症高齢者と家族の質の高い継続的な暮らしを目指した取り組みの評価 地域の支援者を対象としたアウトカム調査から
3. 学会等名 日本老年看護学会第27回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 徳永しほ, 沢田淳子, 桂晶子, 中込沙織, 出貝裕子, 成澤健, 萩原潤, 大塚真理子
2. 発表標題 認知症の人に対する特別養護老人ホームの意識と現状 コロナ禍でのA町2カ所の施設職員の意識から
3. 学会等名 日本老年看護学会第27回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中込沙織, 出貝裕子, 成澤健, 桂晶子, 萩原潤, 沢田淳子, 徳永しほ, 大塚真理子
2. 発表標題 介護老人保健施設の職員における専門職種連携実践コンピテンシーの変化 2018年と2021年の比較から
3. 学会等名 日本老年看護学会第27回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 沢田淳子, 出貝裕子, 中込沙織, 成澤健, 徳永しほ, 桂晶子, 丸山優, 國澤尚子, 畔上光代, 大塚真理子
2. 発表標題 認知症高齢者と家族の長期療養を専門職や住民で支える研修活動の実装と評価 A町における2018年から2021年の取り組みから
3. 学会等名 日本老年看護学会第27回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中込沙織, 大塚真理子, 出貝裕子, 成澤健, 桂晶子, 徳永しほ, 斉藤文子, 國澤尚子, 丸山優, 畔上光代
2. 発表標題 認知症高齢者の長期療養プロセスと連携ケアを視覚化するツールの活用と効果 - 多機関の多職種との研修を通して -
3. 学会等名 日本老年看護学会第25回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桂晶子, 萩原潤, 成澤健, 出貝裕子, 中込沙織, 徳永しほ, 大塚真理子
2. 発表標題 認知症の人へのインフォーマルサポートに対する専門職の認識
3. 学会等名 日本老年看護学会第25回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徳永しほ, 成澤健, 萩原潤, 桂晶子, 中込沙織, 出貝裕子, 大塚真理子
2. 発表標題 認知症高齢者と家族を支える地域サポーターと保健医療福祉の専門職との連携 - A町の民生児童委員・認知症サポーター等への実態調査から -
3. 学会等名 日本老年看護学会第25回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 出貝裕子, 大塚真理子, 中込沙織, 成澤健, 桂晶子, 萩原潤, 徳永しほ, 國澤尚子, 丸山優, 畔上光代
2. 発表標題 認知症連携ケア研修前後の専門職種連携実践コンピテンシーの変化
3. 学会等名 日本老年看護学会第25回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 國澤尚子, 出貝裕子, 桂晶子, 成澤健, 中込沙織, 萩原潤, 丸山優, 畔上光代, 大塚真理子
2. 発表標題 A 町の認知症支援のためのベースライン調査(2) - IPW コンピテンシー自己評価尺度による職種の特徴 -
3. 学会等名 第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 成澤健, 出貝裕子, 中込沙織, 桂晶子, 萩原潤, 大塚真理子
2. 発表標題 地域に密着した病院の認知症高齢者ケアに関する取り組みの現状と課題
3. 学会等名 日本老年看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 國澤尚子, 出貝裕子, 桂晶子, 成澤健, 中込沙織, 萩原潤, 丸山優, 畔上光代, 大塚真理子
2. 発表標題 A町の認知症支援のためのベースライン調査 - 専門職のIPWコンピテンシー自己評価から -
3. 学会等名 第12回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丸山優, 出貝裕子, 桂晶子, 成澤健, 中込沙織, 萩原潤, 國澤尚子, 畔上光代, 大塚真理子
2. 発表標題 A町の認知症支援のためのベースライン調査 - 病院と老健の職員が認識するインフォーマル支援者との連携上の課題 -
3. 学会等名 第12回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun Hagihara, Shoko Katsura, Saori Nakagomi, Yuko Degai, Ken Narisawa, Mariko Otsuka
2. 発表標題 An impression to a dementia in residentials at A town in Miyagi Prefecture, JAPAN
3. 学会等名 The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大塚真理子, 中込沙織, 桂晶子, 成澤健, 萩原潤, 出貝裕子, 菅井友美
2. 発表標題 C町の地域特性と医療・高齢者福祉の現状
3. 学会等名 日本ルーラルナーシング学会第14回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ken Narisawa, Shoko Katsura, Jun Hagihara, Saori Nakagomi, Yuko Degai, Mariko Otsuka
2. 発表標題 Awareness Among Local Resident Supporters in Relation to Support for Elderly People with Dementias
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Siho Tokunaga, Mariko Otsuka
2. 発表標題 Efforts to Promote a Dementia Cafeacute; in Town B, Prefecture A, Japan
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 内海史子, 鈴木美佐, 白戸千愛, 森美保, 千葉美恵子, 大塚真理子
2. 発表標題 特別養護老人ホームにおける認知症ケア研修の評価と課題 - ケア改善・現場改革を目指して -
3. 学会等名 日本認知症ケア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畔上光代, 國澤尚子, 丸山優, 木戸宜子, 大塚真理子
2. 発表標題 A町で実施した認知症連携ケアリーダー研修会の成果と課題
3. 学会等名 日本認知症ケア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 國澤尚子, 丸山優, 畔上光代, 木戸宜子, 出貝裕子, 桂晶子, 成澤健, 萩原潤, 中込沙織, 徳永しほ, 大塚真理子
2. 発表標題 A町における認知症連携ケアリーダーの連携実践力
3. 学会等名 日本認知症ケア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山優，畔上光代，國澤尚子，大塚真理子
2. 発表標題 A町の認知症連携化リーダーが考える認知症連携ケアの理想に対する活動の検討 - 実効性と実現性の視点から -
3. 学会等名 日本認知症ケア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中込沙織，大塚真理子，鈴木大希，佐久間淳，桂晶子
2. 発表標題 専門職による服薬支援ロボット活用の効果と課題 - 1人暮らし認知症高齢者への家族介護者との連携から -
3. 学会等名 日本認知症ケア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桂晶子，萩原潤，成澤健，出貝裕子，中込沙織，徳永しほ，大塚真理子
2. 発表標題 A町で認知症高齢者と家族を支援する在宅サービス担当者の実態（その1） - 認知症の人に対する専門職と高齢者の意識の比較から -
3. 学会等名 日本認知症ケア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大塚真理子，桂晶子，萩原潤，成澤健，出貝裕子，中込沙織，徳永しほ
2. 発表標題 A町で認知症高齢者と家族を支援する在宅サービス担当者の実態（その2） - 専門職が行う他職種、他機関との連携から -
3. 学会等名 日本認知症ケア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桂晶子, 成澤健, 出貝裕子, 中込沙織, 萩原潤, 徳永しほ, 國澤尚子, 丸山優, 畔上光代, 大塚真理子
2. 発表標題 -認知症の人とその家族を支援する専門職の連携実践能力 - B町の在宅サービス関連施設等の職員調査から
3. 学会等名 日本認知症ケア学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中込沙織, 大塚真理子, 徳永しほ, 桂晶子, 寺本友梨, 早坂まゆみ, 沼倉和人, 熊谷由美, 鈴木大希, 青木秀利
2. 発表標題 コロナ禍により中断していた認知症カフェ再開時の参加者の反応 - A町の認知症カフェの実態 -
3. 学会等名 日本認知症ケア学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 丸山優, 畔上光代, 水間夏子, 國澤尚子, 大塚真理子
2. 発表標題 急性期病院に入院する高齢患者の身体活動の促進を目指したプログラムに関する文献検討 本邦における報告に焦点をあてて
3. 学会等名 日本老年看護学会第27回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丸山優, 畔上光代, 國澤尚子, 中込沙織, 大塚真理子
2. 発表標題 連携した認知症ケアの実装を目指したリーダー研修の評価 研修1年後の調査から
3. 学会等名 日本老年看護学会第28回学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	丸山 優 (Maruyana Yu) (30381429)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授 (22401)	
研究分担者	成澤 健 (Narisawa Ken) (90584491)	宮城大学・看護学群・助教 (21301)	
研究分担者	徳永 しほ (Tokunaga Shiho) (90805491)	宮城大学・看護学群・助教 (21301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------